



これまでの10年、これからの10年

校長 並木 信治

2月1日(水)、本校創立10周年記念行事が無事終了いたしました。両部門が一体となり、児童・生徒の心に残るお祝いができたものと、嬉しく思います。この佳き日を迎えることができましたのも、ひとえに保護者の皆様はじめ、日頃より本校を御支援いただいているすべての皆様の御厚情の賜物であり、教職員一同心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

平成25年の開校以来、志村学園は、校訓「継続は力なり」のもと、人権の尊重、障害特性の理解、個性の伸長、豊かな人間性と社会性の涵養、自立と社会参加を目指した教育活動を展開し、地域に根差した肢体不自由教育及び知的障害のある生徒を就労へと導く職業教育に係る確固たる基盤を築いてまいりました。佳節を迎える本年、志村学園は「これまでの10年、これからの10年」をキーワードとし、次なる10年に向け、この基盤を更に強固なものとしつつ、時代の流れに即応した特色ある学校づくりを進めるべく、取組を進めております。

「次なる10年」、大切にしたいポイントは、次の3点です。

1 「ニューノーマル」(新たな日常)

基本的感染症対策は、私たちの生活に根付き、「新たな生活様式」として定着しています。また、新型コロナウイルスの流行を機に、教育のICT化が一気に加速し、今年度より高等部生徒への一人1台端末の導入も開始されました。これを好機と捉え、

オンラインやオンデマンド、Teamsを活用した授業実践の充実を推進します。

2 「SDG s」

御承知のとおり、SDG sは2015年に国連が定めた、2030年に向けての持続的な世界的開発目標です。平和、平等、環境保全、多様性の尊重など、これからの時代を生き抜くために必要な知識や概念を、児童・生徒が主体的に学ぶことができるよう、積極的に授業改善を進めます。

3 「GRIT」(G「度胸」・R「復元力」・I「自発性」・T「執念」)

GRITは、アメリカのペンシルバニア大学の教授が、社会で成功している人に共通する能力として提唱したもので、誰しもが後天的に伸ばすことが可能であるとされています。目標に向かって、失敗してもあきらめずに粘り強く取り組む力を児童・生徒が身に付けられるよう、教育活動を工夫しながら展開して参ります。

次なる新たな10年に向けて、志村学園は歩みを進めて参ります。どうかこれからも、これまでと変わらぬ御理解、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



創立 10 周年記念行事を終えて

創立 10 周年プロジェクト担当 就業技術科副校長 阿出川 千賀子

本校の創立 10 周年を迎えるにあたり、コロナの状況の変化に対応できるよう、ハイブリッド方式での開催とし 2 年前から準備を進めてきました。当日は、式典、祝典、公開研究会の 3 部構成という少々欲張りな計画となりましたが、コロナ禍だからこそ実現可能な形を工夫しアイデアを出し合いました。御来賓をお招きすることは叶いませんでしたが、記念動画や本校 HP に特設コーナーを設け、10 周年行事の様子を御覧いただけるようにしました。当日の式典とアトラクションは、感染症対策のため、児童・生徒は会場の体育館と教室に分散しオンラインで中継し参加しました。式典には、外部からオンラインで参列された方もいらっしゃいます。

【第 1 部】式典では、就業技術科と肢体不自由教育部門の代表の生徒が、児童・生徒を代表して二人そろってステージからメッセージを伝えました。在校生だけでなく、1 期生からの卒業生の思いも込めてスピーチをしました。式場の準備は、就業技術科 3 年ビルメンテナンスコースの生徒がシート敷き、椅子並べ、紅白幕の設置、清掃などを担いました。仕事に誇りと責任をもち、特に椅子は縦横ミリ単位で整えていました。なお、敷地内の花壇の整備は流通・都市農園芸サービスコース、校内の水回りの清掃は介護・コミュニケーションコース、事務・情報処理の学習では記念誌の印刷、記念品のマドレーヌ約 400 個は食品加工コース、クリアファイルやカレンダーは美術の時間にと、それぞれができることを主体的に担ってくれました。

【第 2 部】祝典（アトラクション）では、肢体不自由教育部門 2 名と就業技術科 3 名の生徒が協同で司会進行を担当しました。5 人の連携プレーと心温まる進行がとてもよい雰囲気を作り出しました。肢体不自由教育部門の動画発表の上映中には、時折温かい拍手が沸き起こりました。就業技術科音楽部による『アルヴァマー序曲』の壮大で重厚な演奏には、感動で涙があふれました。10 周年を祝うためにアレンジされた合奏を成功させようと、挑戦を重ねてきた音楽部の皆さんに、心から敬意を表します。ミュージカル部のダンス発表『志村 1000%』は、実に軽快で華麗なチームパフォーマンスでした。ミュージカル部は 1 月 14 日に東京都特別支援学校総合文化祭舞台芸術演劇祭での『鶴の千羽織り』の発表を終えたばかりで、余韻にひたることもなく約 2 週間でダンスの仕上げに取り組みました。その切り替えの早さとピタリタイミングを合わせた完成度の高さは、あっぱれです。新しい 10 年に向けた希望が見える元気での発表でした。フィナーレでは、就業技術科の生徒からフォー S の会の代表の保護者の方へ、肢体不自由教育部門の児童・生徒からは PTA 会長の方に感謝状を贈呈しました。志村学園に通う児童・生徒を、ずっと見守り支えてくださった御礼の気持ちを、代表の生徒から伝えました。志村学園の一員として、志村学園をいつも心強くサポートしていただき、本当にありがとうございます。



【第 3 部】公開研究会は、教職員や教育関係者のみならず、お世話になっている企業・事業所等の皆様の御参加も多数いただきました。本校の児童・生徒の教育について関心を寄せていただき、文部科学省特別支援教育調査官 加藤宏昭様の御講演を通じて研修を深められたことにも御礼申し上げます。

志村学園は、平成 25 年度に都内で 4 校目の高等部就業技術科として開校し、当時から大切にしてきた志村学園の特色を伝統として受け継ぎ現在に至ります。志村学園の良き伝統は、人が変わっても受け継がれていくものだと思います。一方、社会の変化やニーズの変化に対応していく責任があり、その期待に応えて行けるよう努力を重ねていきたいという思いを改めて強く感じています。開校に携わった関係の皆様、志村学園に通い学んでくれた卒業生や在校生の皆さん、その保護者の皆様、志村学園に興味をもって学科説明会に参加していただいた皆さん、本校の生徒の受入れてくださった実習先・進路先の企業・事業所の皆様、関係諸機関の皆様、本校にお越しいただいている外部専門家の皆様にご心から感謝申し上げます。引き続き、志村学園をどうぞよろしく願いいたします。

志村学園の 10 年間の歴史の後半の 5 年間に副校長として勤務し、10 周年を祝うこの瞬間に立ち会えたことをとても光栄に思います。ありがとうございました。

共に

肢体不自由教育部門副校長 二階堂 美保

10周年記念行事、特に第2部の祝典は、肢体不自由教育部門、就業技術科それぞれの児童・生徒が協力し合い、一生懸命作り上げた、心を打つものとなりました。司会進行、肢体不自由教育部門生徒が作成した学習場面の動画の発表、就業技術科による音楽部の演奏、ミュージカル部のダンス。とても立派で、とてもすてきでした。同じ学校で学びながらも直接交流することがなかなかできませんでしたが、今回の祝典はお互いを認め合う良い機会となったことと思います。これからも共に成長していきましょう。



保護者、地域の皆様に支えていただき 10歳の誕生日を迎えた志村学園、これからもどうぞ応援をお願いいたします。

10周年行事を終えて

肢体不自由教育部門副校長 西 健史

今年度、都立志村学園に着任し、10周年の節目を、児童・生徒をはじめ関係する皆様と共に喜び合うことができました。私は12年前に志村学園開設準備室が都立北特別支援学校に設置され、同校の教務主任として、初代校長となる堀内校長、開設準備室の皆様と、肢体不自由教育部門の教育課程や施設的设计などについてお聞きしたことを思い出しました。話だけだったものが、形を成し、10年が経ちました。



2月1日は記念式典、記念祝典、公開研究会と一日掛けて現在の到達点と10年間を振り返りました。肢体不自由教育と就業技術科の両部門で開校して、早10年。多くの卒業生を輩出し、少しずつかつしっかりと板橋の地に根付いてきていることを、保護者の皆様、また地域の皆様とのお話の中で感じています。

これからも、これまでと変わらぬ御支援、御協力をお願いいたします。

新しい周年行事の在り方

創立10周年プロジェクト担当 主幹教諭 橋爪 淳

昨年度より10周年行事のプロジェクトチームが立ち上がり、コロナ禍において、どのような形で周年行事ができるのか、たくさん悩んだところから始まりました。検討を重ねた結果、ニューノーマルを踏まえた一歩先を行く周年行事に挑戦し、今、できることを工夫しながら取り組むことで、今まで支えていただいた皆様や志村学園で学ぶ児童・生徒に伝わるメッセージになるのではないかと教職員の思いや考えが軸となりました。



開校から「最初が肝心」を大事にしてきた志村学園の10年間のまとめの機会となり、児童・生徒と共に作り上げた素晴らしい10周年行事となりました。この節目の行事に携わることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもたくさんの方に応援してもらえよう学校を目指していきます。

高等部就業技術科 在校生代表挨拶

就業技術科 宮崎 友徳

私たちの志村学園は創立十周年を迎えました。この節目の年に一生徒としていられるということ、また、このような盛大な式典に参加できますことをとてもうれしく感じています。

十年というこの長い歳月の重みは、私たちの遠く及ばないところです。その間先輩方には、喜びや悲しみ、そして数々の栄光、時には挫折。一言では語り尽くせないたくさんのドラマがあったと思います。これらを思うと、今私たちが学んでいることに幸せと責任の重さを感じます。私は三年間志村学園で様々なことを学びました。日常の授業や行事を通して、自分の事だけではなく、全体をよく把握し、リーダーとして行動していく難しさを知り、仲間と一緒にスムーズに行動できるようになることを学ぶことができました。特に私が「職業に関する教科」で学んでいるビルメンテナンスコースでは、三年生になって授業内実習として近隣の施設の清掃に行っています。今までの授業で学んだことを応用し、実際の施設での作業に生かしています。私はここで顧客意識をもって仕事をする事の大切さを学びました。また、部活動ではバレーボール部に所属し、部活動の楽しさの中に、技術だけでなく礼儀やマナー、チームでの協調性の大切さを学びました。そして自分が三年生になってからは後輩たちをまとめていく難しさを知りました。

このように少しずつ自分が成長できたことは、自分の周囲で支えてくださった先生方、仲間、家族、地域の方々のおかげであり、十年間の志村学園の歩みを周囲の方々が見守ってくださっているからだと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は志村学園の宝物は、校訓だと思っています。「継続は力なり」という校訓もとの活動。これらは今までの卒業生が実践してきたものであり、これからも後輩が受け継いでいかなければならないものです。私は日々の学習や部活動を三年間やり通してきたことが自分の自信となり、社会に出てからも、様々なことに向かっていけるのではないかと思います。これからも「継続は力なり」の校訓を忘れずに心に刻んでいきます。



私たちは新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、今できることに真剣に取り組み、いつかその力を発揮できると信じてこれまで学校生活に取り組んできました。そして、これからは志村学園だけでなく、社会や世界をも動かしていく力と責任が私たちには課せられていると感じています。将来私たちが、多くの人と出会い、成長を続け、「勇気ある社会人」として、未来の日本を動かす原動力になっていくことを今ここに誓い、生徒代表の言葉とさせていただきます。

記念誌・記念品の紹介

10周年行事で大切にしてきたことの一つとして記念誌・記念品のすべてにおいて児童・生徒の学習活動として取り組みました。記念誌は、就業技術科の事務・情報処理の学習で印刷・製本を行いました。

記念カレンダーは、両部門の児童・生徒が、葉っぱを1枚ずつ描き、就業技術科は、「志村学園の未来へつなげる木」肢体不自由教育部門は、「志村学園の希望へつなげる木」を制作しました。

記念クリアファイルは、授業で制作した作品や生徒がデザインをしたものを投票にて決めました。記念焼菓子も、就業技術科の食品加工コースで10年間受け継がれてきたマドレーヌを焼き上げました。志村学園の『おもてなし』がいろいろなところで感じられるとても温かいものになりました。本校のHPで紹介をしていますので御覧ください。



肢体不自由教育部門 在校生代表挨拶

肢体不自由教育部門 都筑 皓生

東京都立志村学園の10周年をお祝いし、肢体不自由教育部門を代表し挨拶をさせていただきます。地域の皆様、学校を支えてくださっている皆様、日々あたたかな御支援をいただき、誠にありがとうございます。皆様の御支援のおかげで、私達は毎日楽しい生活を送ることができています。

私は、小学5年生の時に、高島第二小学校から志村学園に転入してきました。最初の頃は、なかなか友達ができず、不安の日々が続いていました。ですが、毎日学校に通う中で徐々に志村学園の雰囲気慣れてきました。それは、志村学園のみなさんが、笑顔で接してくれたからだと思います。

中学部に入り、部活動を始めました。中学部3年生の時のハンドサッカー大会では東京都大会で優勝をすることができました。それは肢体不自由教育部門にとって初めての東京都大会での優勝でした。ですが、その時の私は、緊張からミスをしてしまい、うまくプレーをつなげることができませんでした。そんな私を当時の先輩方は、力強いシュートで得点し、救ってくれたことを今でもはっきりと覚えています。

あれから3年の月日がたちました。高等部の最高学年になった私はキャプテンに就任しました。そして今、またハンドサッカー大会を目前にひかえています。二度目の優勝を目指し、日々練習に打ちこんでいます。自分なりに力をつけ、率先してプレーすることで後輩をはげまし、チームをひっぱっていきたいと思っています。時には、弱気になってしまうこともあります。あの時私を支えてくれた先輩方の「強い想い」を胸に、最後まで全力で戦い抜くことを目指しています。

私たちは、これからも、先輩が後輩をはげましと行動で勇気づける、良き伝統を守りつつ、新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

最後になりますが、今まで私達を支えてくれた皆様におかれましては、今後ともあたたかな御支援をいただけますようよろしくお願いいたします。



東京都立志村学園 在校生からのメッセージ

創立10周年を迎えた志村学園へ手紙を書きました。メッセージの一部を紹介します。

- 中学生のときから夢だった10期生になれて嬉しかったです。
- 記念すべき10年の節目に入学し、創立を祝えることに誇りに思います。新たな10年に向けて力強く進んでいってください。
- 志村学園10歳のお誕生日おめでとうございます。3年前、私は志村学園の校舎の綺麗さに魅力を感じ、志村学園に入学することを決めました。これからもずっと綺麗な学校でありますよーに!!
- この学校でたくさんの友人、先生に出会って本当に入学してよかったと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。
- 先輩たちの努力を今後は私たちが受け継ぎます。志村学園！サランへヨ!!!
- 志村の給食が好きです。これからもおいしい給食を楽しみにしています。2月1日の紅白ゼリーおいしかった!!
- 私たちを支えてくれてありがとうございます。20周年まで10年間頑張っていきましょう。目指せ、創立20周年!!



東京都立志村学園 創立 10 周年記念行事

【第 1 部】 記念式典

- ・ 開式の辞
- ・ 国歌斉唱
- ・ 校長式辞
- ・ 祝電披露
- ・ 児童・生徒代表の言葉
- ・ 校歌斉唱
- ・ 閉式の辞

【第 2 部】 記念祝典

- ・ オープニング
- ・ 肢体不自由教育部門児童・生徒の発表
- ・ 就業技術科音楽部発表
- ・ 就業技術科ミュージカル部発表
- ・ 感謝状贈呈
- ・ フィナーレ

【第 3 部】 公開研究会

- ・ 開会の言葉
- ・ 10 年の振り返り（就業技術科・肢体不自由教育部門）
- ・ 校長挨拶
- ・ 講演
- ・ 閉会の言葉

創立 10 周年記念 特設ページは右の QR コードから御確認ください。

記念誌や記念動画、記念品を紹介しています。

